



花まつり (お釈迦さまの誕生日祝)



# 西林寺だより

発行元  
西林寺門徒総代会  
広島県安芸郡坂町  
坂東3-14-17  
(082)885-0018  
iタウンページ  
西林寺

杖つえのことば  
おらは  
まんだ人さんに  
堪忍こたへして上げた  
ござんせんやあ  
ことば  
人さんに  
堪忍こたへして  
もらって  
おりますだいな

## 消火訓練

1月23日(水) 西林寺境内で安芸消防署員のご指導で消火器訓練を行いました。火災発生時に必要な初期消火の説明を受け、訓練用消火器を使って使用手順を習いました。



## 仏教壮年会 あれこれ

### 新年互礼会

1月11日(金) 門信徒会館にて開催しました。今年度は仏教壮年会結成50周年にあたり、記念事業や記念行事などの開催について協議されました。そして昨年の豪雨災害を振り返り、今出来ることは何か、また、西林寺の慶讃法要への協力の在り方等、意見交換をしました。



### 研修会

1月26日(土) 教区仏壮研修会が別院で開催され、2名が参加しました。  
2月5日(火) には府中町龍仙寺において安芸北組仏壮研修会が開催され、13名が参加しました。講師は小屋浦西昭寺住職河野法誓

師で「西日本豪雨災害を被災して」という講題で

ご話いただきました。災害によって家財のほとんどが消失したこと、人命にかかわる緊急時での判断の困難さや門信徒のお葬式も勤め難い状況、多くの皆さまに支援をいただいたこと等を通して、阿弥陀さまのお慈悲の中にお育ていただいた喜びについてのお話でした。



そして注意を促されたのは「恐怖のグループライン」と呼ばれる携帯電話の活用方法です。被災者への心配のあまり、電話やメール等で一斉に連絡することは、災害時のバッテリーの容量等を考えて、極力制限したいものです。また、3月2日(土)には教区仏壮連盟結成40周年記念大会が開催され、300人を超える参加がありました。ご尽力いただいた48名の功労者表彰があり、西林寺からは前会長の山本政信氏・現会長の大廻那雄氏が表彰されました。



## 仏教壮年会行事予定

四月七日(日) 総会15時から  
六月初旬 松の木剪定

## 法座案内

### 春季永代経法座

四月 十四日(日) 昼席より  
講 師 三原市大和町  
浄 楽 寺 栗原 一乗 師

五月 十七日(金) 昼席より  
講 師 呉市蒲刈町  
浄 泉 寺 東元 晃 慈 師

宗祖降誕会  
五月 十九日(日) 朝席まで

朝席7:00～・昼席13:15～・夜席19:30～

## 花まつりのご案内

4月5日(金) 14時から西林寺本堂でお釈迦さまの誕生をお祝いする「花まつり」を行います。多くの子どもさんの参加をお待ちしております。お菓子やジュースもあります。

## 編集後記

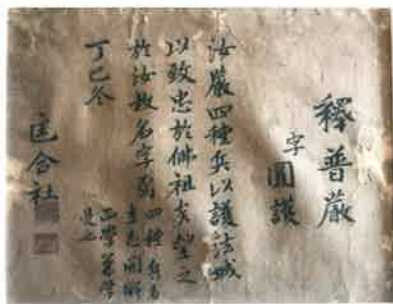
豪雨災害から9カ月が経ち、ようやく全壊家屋の解体が進み、町内の至る所に空き地が広がっております。諸行無常といつももお聞かせいただいていることではありますが、変わり果てた町内の風景に寂しさを憶えずにはおられません。この寺報を通して、大切な記憶を後世に伝えてゆきたいと思っております。

## 西林寺の沿革(7)

西林寺の歴史は本堂の焼失もあり、記録されたものが寺内にも坂町内にもあまり残っておらず、伝承の中にも不確かなものが含まれていますので、ここまで大まかなことだけお伝えしています。まとまった記録は、後に本願寺勧学の拜命を受ける第8世住職普蔵(1775~1835)によって記録されたものによるところが大きいのですが、そこにも「往時悠々忽二決シカタシ後人コレヲ校セヨ」と記しています。

この普蔵は、大瀧(広島で一番有名な近世を代表する僧侶、次号以降にて詳述)の勧めにより、第7世住職惠見(1757~1825)の娘と結婚して入寺しています。その後、惠見には男子が誕生します(第9世住職僧肇)が、普蔵は嗣法(新発意)として第8世を継職します。

この時代に本堂再建(1814)、鐘楼再建(1821)、経蔵創建(1830)等、立て続けに伽藍が整備されます。



大瀧からの書状 (1797年)



聞思録(もんしらく)

妙好人(真宗の篤信者)の源左さんに次のような話があります。大正11、12年頃、因幡(鳥取県)の有志が京都の一燈園主西田天香氏を招いて講演会を開きました。天香氏は無所有奉仕の生活の中に生きる喜びを体得し、伝道された方です。源左さんにも案内がありました。源左「今日のお話は、どがなお話で御座んしたな」

天香「お爺さん、年が寄ると気が短くなつて、よく腹が立つようになるものだが、何でも堪忍して、こらえて暮らしなされや。そのことを話したんだが」

源左「おらは、まんだ人さんに堪忍して上げたことはござんせんやあ。人さんに堪忍してもらってばかりおりますだいな」

この一言に天香氏は強く共感されました。思想や信条を越えた真実の地平がここにあります。私たちは仏法の学びの中ではじめて、普段のものの方と違う視点である「許されどおし」の私に気付かされるのです。3月で成婚25年を迎えました。坊守にはねざらりと感謝しかありません。環境の違うと

ころに单身飛び込んで来てくれたにもかかわらず、思いやることも疎かにしてきました。戸惑うことも多かったです。我慢のあまり涙する日もあったことと思います。しかし、住職としての私を支え、真心をもってご門徒に接してくれたことは、私の仏道の歩み、そして住職の務めを果たしてゆく上に、大きな支えとなってくれました。

しかし、それ以上に、ご門徒をはじめとした周りの皆さまに「堪忍していただいて」私たちを温かく包み込み、お育ていただいていた現実を、源左さんの言葉から改めて気付かされたことです。私にはできかねる堪忍を、まわりの皆さまが代わってくださって、やっとならぬように自己中心的な私であるとめざめさせずにおかないのが仏さまの大悲のお心です。結婚時に恩師からは

夫婦の愛がまことに育つということは

この縁はそれぞれが自分の意志で

前の世に播いた種子が

ここに芽生えたと思えるように

なつた時からである

と揮毫いただきました。恩師の願いを深く噛みしめ、大悲の心を味わいながら、許されて生かされていることへの感謝を忘れない日々を送りたいものです。

納骨と分骨

納骨とは火葬後の遺骨をお墓や納骨堂に納めることです。納骨の時期に決まりはありません。以前はお骨を長期間納骨しないでおくことは、お骨を粗末に扱うことになるので、十九日を目安に納骨を勧めていたようですが、最近は気持ちの整理がつくまで自宅で安置される方が増えてきました。

また、浄土真宗では親鸞聖人を慕い、聖人やご先祖と同じ浄土に往生させていただく(俱会一処)という思いから、聖人のお墓のある大谷本廟に分骨する伝統があります。大谷本廟には西林寺門信徒専用の納骨堂も完備されており、毎年、念仏奉仕団上山の折にはお参りしております。

近年は大谷本廟に限らず、お墓に参りやすいようにとの理由や永代にわたってお守りしていただくとこの理由から近くのお寺への分骨希望が増えてきました。西林寺も今年中に合同納骨廟が建立予定です。



納骨壺 (右は分骨用壺)

煤払いとおみがき



年末年始、お朝事後、仏具のおみがきと本堂煤払い、境内のお掃除をしました。



ジャムの販売案内

仏教婦人会と若婦の会が協力してジャムを作りました。4月17日(水)の仏婦総会で販売させていただきます。



お朝事後、仏具のおみがきと本堂煤払い、境内のお掃除をしました。

煤払いとおみがき

ジャムの販売案内

仏教婦人会行事のご案内

仏教婦人会 あれこれ

御正忌報恩講

1月15日(火)から17日(木)まで、御講師は神石郡法泉寺住職川上順之師をお迎えして勤められました。15日夜席と16日昼席では『御伝鈔』の拝読があり、その後、温かい「ぜんざい」を食べていただきました。これは宗祖親鸞さまが小豆が大好きだったことに由来します。



念仏奉仕団上山

3月4日(月)から1泊2日で、22回目の西林寺念仏奉仕団を結成し、24名で上山しました。全国各地からの奉仕団の皆さまと御影堂の清掃奉仕をしました。

5日は第9代宗主実如上人のご祥月法要のご縁に会い、閉会式ではご門主様より「念仏奉仕団の方々のご奉仕と晨朝法要での正信偈のご唱和は本願寺の宝です」の御言葉



ました。生演奏で歌い踊る華麗なステージに感激して満たされた気分でした。

をいただき、このご縁に感謝し、今後も参加を重ねたいと思えました。行事終了後大谷本廟に参拝し、続いて宝塚歌劇団の公演「CASANOVA」を観劇しました。



大谷本廟 納骨堂



大谷本廟 明著堂



ダーナ募金報告

1月に募金活動したダーナ募金を安芸北組仏教婦人会連盟と坂町社会福祉協議会及びワイワイハウスに寄付させていただきました。

仏教婦人会行事のご案内

四月十七日(水) 13時から

総会・追弔法要

五月十八日(土)

合同初参式 11時から

降誕会祝賀アトラクション

六月三十日(日) 10時から

仏教婦人会結成70周年

記念大会